令和３年度　教育の情報化推進部会　活動報告

資料２

１　目　的

教育活動全般において、児童生徒が日常的に ICT 環境を活用するための取組を実践・検証する。また、取組を全市へ展開し、仙台市立学校における ICT 環境の日常的な活用の推進を図る。

２　組織および構成委員について

（１）アドバイザー（有識者）　　東北学院大学　教授　稲 垣　忠　氏

（２）学校教育関係者

所　　属	役職	役割	氏名	所　　属	役職	役割	氏名
錦ケ丘小学校	校長	部会長	菅 原　弘 一	幸町中学校	教諭	部　員	木 村　嘉 彦
国見小学校	教諭	部　員	須藤　なるみ	広瀬中学校	教諭	部　員	齋　藤　　純
金剛沢小学校	教諭	部　員	青 沼　和 子	仙台青陵中等教育学校	教諭	部　員	藤 原　弘 也
蒲町小学校	教諭	部　員	佐 竹　直 人				
台原中学校	教諭	部　員	菅 原　美 幸	仙台高等学校	教諭	部　員	増 渕　絵 理

（３）教育センター・教育指導課情報化推進係

所　　属	役　職	役　割	氏名
仙台市教育センター	指導主事	事務局	渡　邊　　朗
教育指導課　情報化推進係	指導主事	事務局	石 井　里 枝
教育指導課　情報化推進係	指導主事	事務局	新 妻　浩 平

３　活動内容について

・部員の所属校における ICT の日常的活用推進のための実践に取り組む。
・実践事例を発信し、全市立学校の ICT 活用推進を図る。
※GIGA スクール端末活用基礎研修（オンライン）終了後、５分程度で行う

４　令和３年度の活動スケジュールについて

※実践報告実施時の GIGA スクール端末活用【基礎研修】参加者：3,726 名
※仙台 GIGA スクールサポートサイト【実践報告】視聴者総数：401 名

日　　程	会　　場	内　　容
6 月 25 日 14:30～16:30	錦ケ丘小学校 多目的ホール	・顔合わせ　・今年度の取組についての概要説明 ・情報交換（各学校の実情）
7 月 13 日 基礎研修参加者 282 名	オンライン 実践報告	【報告者】蒲町小学校　佐竹直人　教諭 【テーマ】端末の持ち帰り
7 月 16 日 基礎研修参加者 228 名	オンライン 実践報告	【報告者】幸町中学校　木村嘉彦　教諭 【テーマ】オンライン学習
7 月 30 日 14:30～16:30	教育センター 第 4 研修室	・各学校における実践及び実践予定についての報告 ・実践活動報告についての内容および方法の検討
9 月 7 日 基礎研修参加者 462 名	オンライン 実践報告	【報告者】国見小学校　須藤なるみ　教諭 【テーマ】Classroom の活用について　～教科～
9 月 10 日 基礎研修参加者 333 名	オンライン 実践報告	【報告者】仙台高等学校　増渕絵里　教諭 【テーマ】Classroom の活用について　～総合～
9 月 14 日 基礎研修参加者 270 名	オンライン 実践報告	【報告者】金剛沢小学校　青沼和子　教諭 【テーマ】「失敗」からのやる気アップ！
9 月 17 日 基礎研修参加者 288 名	オンライン 実践報告	【報告者】台原中学校　菅原美幸　教諭 【テーマ】「Jamboard」で見える化
10 月 5 日 基礎研修参加者 199 名	オンライン 実践報告	【報告者】仙台青陵中等教育学校　藤原弘也　教諭 【テーマ】高校英語における実践
10 月 8 日 基礎研修参加者 108 名	オンライン 実践報告	【報告者】金剛沢小学校　青沼和子　教諭 【テーマ】低学年での Chromebook 活用
10 月 15 日 基礎研修参加者 363 名	オンライン 実践報告	【報告者】広瀬中学校　齋藤　純　教諭 【テーマ】生徒の主体的な ICT 活用
10 月 19 日 基礎研修参加者 245 名	オンライン 実践報告	【報告者】国見小学校　須藤なるみ　教諭 【テーマ】Chromebook を活用した読書活動
10 月 22 日 基礎研修参加者 293 名	オンライン 実践報告	【報告者】幸町中学校　木村嘉彦　教諭 【テーマ】GIGA スクールにおける小中連携
10 月 26 日 基礎研修参加者 304 名	オンライン 実践報告	【報告者】蒲町小学校　佐竹直人　教諭 【テーマ】校内研究×職員スキル UP
10 月 29 日 基礎研修参加者 351 名	オンライン 実践報告	【報告者】広瀬中学校　齋藤　純　教諭 【テーマ】デジタル学習履歴を活用した発信型授業
1 月 18 日	教育センター	・実践の振り返り　・次年度の取組検討

５　今年度の取組を振り返って

（１）部員の意見・感想等から（〇：成果　▲：課題）

〇失敗を恐れず、楽しんで取り組む雰囲気が構築できた。

〇実践を報告する機会があることで、取組についての振り返りや整理ができ、次に生かすことができた。

〇打合せや授業検討会など、教員同士で活用する機会を多く設定することで先生方の端末操作スキルが向上し、授業での活用につながっていった。

〇学校行事や委員会活動もクラウド環境を有効に活用して実施できた。

〇様々な場面で活用することにより児童生徒が端末活用のメリットを感じていた。

▲１人１台端末で目指す学びの姿が不明瞭なため、どのような児童生徒像を求めて授業づくりを行うのかが見えてこず、ＩＣＴが不得手な先生方の意欲向上を図ることが難しかった。

▲学年や学級間の格差があり、児童生徒や保護者が不満を漏らすことがあった。

（２）アドバイザーから

・たくさんの事例を伺ったが、仙台市の教育の情報化推進方針と具体の取組を関連付け、全市展開に向けて何をこの部会から発信していくのかを整理する必要がある。

・端末を活用した臨時休校や不登校等の対策としての学びの保障については市民の認知は広がりつつあるが、仙台市としてどう対応するのかをモデル校の実践をもとに明確に指針を示すべきである。今後は GIGA スクール構想の目的をあらためて確認し、子供たちが学びの道具として端末を使うことができているか、個別最適な学びをどう実現していくのかということを意識して実践することが大切である。

・学年学級間の格差は ICT に限った話ではなく、教科指導でも得意不得意があるのは当たり前であり、それぞれの個性を生かしながら、みんなでフォローし合う環境を醸成すれば良い。最終的に目標に到達しているかどうかを確かめるためのカリキュラムマネジメントの推進が重要である。

・情報モラルやセキュリティの問題は今後も起こってくることが予想される。情報の扱い方の適切さに関する指導とともに、端末やクラウド利用に関するグラウンドルールを、子供たち・保護者と合意形成を図りながら設定していくことが大切。子供自身が振り返りながら、意識を向上させていくような日常文化の構築が必要である。

（３）部会長から

・委員の先生方の実践を見ると、端末活用の日常化がずいぶん進んできたと感じる。これからという学校に、どのように普及させていくかということを考えることが必要である。

・ある程度のところまでは、苦労する時間がある。委員の先生方は、それを乗り越えた先に「どのような素敵な子供たちの姿があるのか」を、乗り越える手前でとどまっている先生や学校に伝えてほしい。

・端末活用を上手にスタートできなかった先生方のハードルは何なのかを把握し、必要感があるタイミングで研修を行うと効果的。性急に授業で効果的に使うことを求めるのではなく、校内研究の事後検討会や職員会議や打合せなど、活用効果を実感しやすい場面で使うのは良い取組だと感じた。

・部会としては、子供たち自身が情報活用能力を身に付けることの意義や効果を実感できるような、取組を中心に考えていくとよいのではないか。